

校 園 別 研 究 目 標

「校園別研究目標」は、校種別に各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動などの課題を示したものである。

学習指導に当たっては、幼児・児童・生徒一人一人の実態を的確に把握し、個々の状況に応じた指導・支援を行うために、学習活動、学習形態、評価方法及び教材・教具などを工夫することや、幼児・児童・生徒一人一人が意欲をもって自ら考え、判断し、表現できるような指導方法・指導体制の工夫改善を図り、学び方を身に付け、学ぶ楽しさを実感できる授業の展開に努めることが重要である。

また、小中一貫した教育をはじめとする校種間連携を一層推進するため、全ての教科・領域において、校種間の円滑な接続を図るための研究に努めることが大切である。

◇ 高等学校

(1) 国 語

ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」及び「読むこと」の各領域での言語活動を通して、社会人として必要とされる国語の能力の基礎を身に付けることができる指導方法について研究する。

イ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、義務教育段階での学習内容の確実な定着を図り、進路等を考慮し、生徒の実態及び学習内容の習熟の程度等に応じた指導方法について研究する。

ウ 伝統的な言語文化への興味・関心を広げるために、古文、漢文、現代文に親しみ、我が国の伝統と文化に対する理解を深め、国語を尊重する態度を育てる指導方法について研究する。

エ 生徒の学習の達成状況を的確に評価するために、指導と評価の一体化を進めるとともに、自己評価や相互評価を含めた評価の場面や方法について研究する。

(2) 地 理 歴 史

ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、義務教育段階での社会科における学習内容との連続性に配慮し、世界史、日本史、地理それぞれの科目相互の関連を重視した内容構成や指導方法について研究する。

イ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、生徒の発達段階や各科目の専門性・系統性に留意し、地図や年表等のさまざまな資料を利用した指導方法について研究する。

ウ 生徒の学習の達成状況を的確に評価するために、歴史的事象や地理的事象について考察し、学習内容の説明や自己の考えを論述し、討論する学習活動の評価方法について研究する。また、指導と評価の一体化をさらに進め、目標に準拠した学習評価のあり方について研究する。

(3) 公 民

ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、社会事象に対する客観的で公正な見方や考え方と、自己のあり方生き方についての自覚を育てる指導内容や指導方法について研究する。

イ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、中学校社会科の学習をふまえ、習得した知識や概念などを用いて各科目の特質に応じた諸課題について探究させる指導方法について研究する。

ウ 生徒の学習の達成状況を的確に評価するために、現代社会の諸事象について考察し、学習内容の説明や自己の考えを論述し、討論する学習活動の評価方法について研究する。また、指導と評価の一体化をさらに進め、目標に準拠した学習評価のあり方について研究する。

(4) 数 学

ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、数学的活動を通して、数学における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解を深め、事象を数学的に考察し表現する能力を高めることができる指導のあり方について研究する。

イ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、創造性の基礎を培うとともに、数学のよさを認識し、それらを積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断する態度を育てる学習指導や、生徒の関心や意欲を高める課題を設定して、数学的活動を重視した課題学習の指導方法について研究する。

ウ 生徒の学習の達成状況を的確に評価するために、「関心・意欲・態度」「数学的な見方や考え方」「数学的な技能」「知識・理解」を柱とした観点別学習評価の推進を図り、指導と評価の一体化を更に進めるための評価規準や評価方法について研究する。

(5) 理 科

ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、各科目の特質に応じ、科学に関する基本的な概念の一層の定着を図るとともに、目的意識をもって観察・実験などを行い、結果を分析、解釈、表現するなどの科学的に探究する学習活動のあり方及び、科学的な自然観を育成する指導方法について研究する。

イ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、科学を学ぶ意義や有用性を実感させ、生徒の興味・関心や進路等の多様性をふまえた指導方法について研究する。

ウ 生徒の学習の達成状況を的確に評価するために、義務教育段階との接続に配慮し、科学の基本的な見方や概念を柱として内容を構成するとともに、目標に準拠した評価のあり方や指導と評価の一体化について研究する。

(6) 保 健 体 育

ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、発達の段階において運動の特性や魅力に応じ、合理的・計画的に運動が実践できるよう指導のあり方について研究する。また、健康・安全の課題に直面した場合に、的確な思考・判断に基

づいて適切な意志決定を行い、行動の選択ができる指導のあり方について研究する。

イ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、生徒一人一人のこれまでの学習をふまえ、身に付けた知識を深めるとともに技能を高め、単に知識や技能を身に付けるだけでなく、知識と技能を関連させて学習できる指導のあり方について研究する。

ウ 生徒の学習の達成状況を的確に評価するために、指導と評価を一体化させた効果的・効率的な学習評価を推進し、評価規準の作成や評価方法等について研究する。

(7) 芸術

ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、多様な観点から芸術に対して生徒が主体的にかかわることのできる指導内容及び指導計画の工夫・改善について研究する。

イ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、生徒一人一人がそれぞれ興味・関心や個性を生かして主体的に取り組むことができる教材及び指導方法について研究する。

ウ 生徒の学習の達成状況を的確に評価するために、単に技能的な面だけでなく、芸術に対するとらえ方や考え方を深化させたり、それを自ら表したりすること、あるいは芸術的価値意識を拡大したり、新たに見いだしたりすることができるよう、総合的な評価のあり方について研究する。

(8) 外国語

ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育て、自ら学習する意欲を養う指導内容や指導方法について研究する。

イ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、中学校における指導をふまえ、生徒の実態及び習熟の程度に応じた指導方法について研究する。

ウ 生徒の学習の達成状況を的確に評価するために、指導方法の改善と工夫を図り、「CAN-DO」リストの形での学習到達目標設定や評価規準の作成、評価方法の工夫について研究する。

エ 生徒のコミュニケーション活動を一層充実するために、「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」を通じて4技能を総合的に育成する指導方法や、「英語で行うことを基本とする」授業のあり方について研究する。

(9) 家庭

ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、実験・実習や生活体験などを重視した指導計画に基づき、生活に必要な知識と技能を習得させ、それらを自己の生活の中で生かし、主体的に課題を解決する能力を育てる指導のあり方について研究する。

イ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、家庭生活や地域の生活と関連付けた生活上の課題を解決する能力や生活を科学的に探究する方法を身に付けさせる指導計画及び

教材・教具の開発、指導方法について研究する。

ウ 生徒の学習の達成状況を的確に評価するために、生徒の実態に応じた指導計画や題材設定を工夫し、評価に関する規準や計画等、評価のあり方について研究する。

(10) 情報

ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、中学校における情報教育の学習内容との接続に配慮して、実習を積極的に取り入れ、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を適切かつ実践的・主体的に活用できるように、指導計画の作成、教材や実習課題等の開発について研究する。

イ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、情報科における学習が他の教科・科目等の学習に役立つように連携を図るとともに、生徒の実態を的確に把握し、生徒一人一人に応じた主体的な学習意欲を高めるための指導方法について研究する。

ウ 生徒の学習の達成状況を的確に評価するために、情報手段を活用した実習や授業で扱う具体例については、情報社会の発展や情報技術の進展に対応して見直しを図るとともに、実習の成果に対して自己評価や相互評価を取り入れるなど、評価のあり方について研究する。

(11) 工業

ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、各学科の目標に基づき、専門科目の基礎的・基本的な事項について具体的な重点を設定し、生徒の実態に即した教育内容の研究を進めるとともに、実験・実習や課題研究等における報告書の作成及び成果発表などを通して、知識・技能の活用を図る教育内容の研究を進める。

イ 個に応じた学習のあり方を工夫するために、生徒の意識の変化や進路の多様化をふまえ、ものづくりを通して自ら考え、課題を解決する実践的な態度を育成するなど、主体的な学習意欲を高めるための指導方法について研究する。

ウ 生徒の学習の達成状況を的確に評価するために、工業の各分野に関する基礎的・基本的な知識及び技能の習得について、生徒の学習過程や到達の程度を把握するとともに、ものづくりを通して身に付けた知識及び技能を活用できるよう、指導方法や評価方法について研究する。

エ 工業高校における安全教育を進めるために、安全についての理解と認識を深めるとともに、実験・実習における事故防止の指導を徹底し、環境及びエネルギーに配慮した実践的・体験的な学習の指導方法について研究する。

(12) 商業

ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、商業の各分野に関する基礎的・基本的な内容と実践的・体験的な学習を重視しつつ、各科目間の有機的連携を図るとともに、課題を探究し解決する力を養うためのプロジェクト型学習を行うなど、創造的な能力と実践的な態度を育てる指導方法について研究する。

イ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、生徒の意識の変化や進路の多様化をふまえて、生徒一人一人がそれぞれの特性を生かした職業選択能力や人生設計能力を身に付けることができるよう、生徒の主体的な学習意欲を高めるための指導方法について研究する。

ウ 生徒の学習の達成状況を的確に評価するために、商業の各分野における基礎的・基本的な知識と技能の習得状況だけでなく、「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」の4つの観点に基づく評価のあり方について研究する。

(13) 福祉

ア 基礎的な知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力の育成を図るために、社会福祉に関する基礎的・基本的な知識を総合的・体験的に習得させ、社会福祉施設の見学、実習、調査研究などの実践的な学習を通して、介護計画の立案や各種の介護など、福祉の現場で活用できる知識と技能を総合的に身に付けさせる指導計画について研究する。

イ 個に応じた学習指導のあり方を工夫するために、生徒一人一人がそれぞれの適性を生かし、社会福祉関連の職業に従事するものとして、安全で確かなサービスの提供などを創造する能力と実践的な態度を身に付けさせる指導方法について研究する。

ウ 生徒の学習の達成状況を的確に評価するために、社会福祉に関する基礎的・基本的な知識や技能の習得状況だけでなく、「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」の4つの観点に基づく評価のあり方について研究する。

(14) 総合的な学習の時間

ア 自ら課題を見つけ、問題を解決していく資質や能力を育て、自己のあり方生き方を考えることができるようにするために、学校や地域及び生徒の実態等に応じ、横断的・総合的な学習（例えば、人権、平和、国際理解、情報、環境、福祉・健康など）や探究的な学習に取り組んだり、生徒の興味・関心や進路等に応じて設定した課題について知識や技能の深化・統合化を図ったりするなど、創意工夫を生かした学習活動が展開できるよう研究する。

イ 生徒の学習意欲をより高め、主体的、創造的、協同的な学習態度を育てるために、問題解決や探究活動の過程に位置づけられた体験的な学習の積極的な導入、グループ学習や個人研究などの多様な学習形態の工夫、地域の人々の協力を得た指導体制の工夫、地域の教材や学習環境の積極的な活用などについて研究する。

(15) 特別活動

ア 相互の受容と共感による親密な人間関係に基づく家庭的な雰囲気の中で行われるホームルーム活動を展開するために、生徒の自主的な問題解決の場であり、望ましい人間関係が形成され、心のつながる場でもあるホームルーム活動をどのように充実すればよいかについて研究する。

イ 学校における自分たちの生活の充実・発展や学校生活の改善・向上をめざす生徒会活動を展開するために、生徒会活動を通して、集団や社会の一員としての自覚と責任感をもち、自己を生かす能力を養い、民主的ルールに基づいて、自発的・自主的な活動を展開できる内容と方法について研究する。

ウ 日常の学習や経験を総合的に発揮し、その発展を図る学校行事を展開するために、学校や地域及び生徒の実態に応じて、行事間の関連を図るとともに、学校行事の精選に努め、そのねらいを達成するための内容と方法について研究する。

(16) 特別支援教育

ア 障がいのある生徒の自立や社会参加を促進するために、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」を作成し、生徒に応じたキャリア教育の充実に向けて研究する。

イ 障がいのある生徒の実態を的確に把握し、「合理的配慮」への観点を踏まえた支援を充実するために、校内での支援体制の整備や特別支援学校のセンター的機能の活用、関係機関との連携のあり方などについて研究する。

(17) 生活指導

ア 生徒との信頼関係を深め、生徒指導を充実し、全校的な指導体制を機能化するために、中学校・高等学校の連携をより深めるとともに、情報交換を密にして、生徒の実態の把握に努め、全校的な共通理解を得るための方法について研究する。

イ 自主と自律の精神を向上させ、学校生活に充実感を抱かせるために、自己のあり方生き方について考え、自発的・積極的に自己を表現しようとする意欲を向上させるよう、集団育成や個別指導のあり方について研究する。

ウ 人間尊重を基盤とした共同生活において望ましい能力と態度を養うために、民主的な社会の形成者としての自覚と責任感の向上を図るよう、教育活動全体を通してあらゆる場で指導する方法のあり方について研究する。とりわけ、人間尊重の教育を一層推進する観点から、「いじめ」「中途退学」「長期欠席」など、生活指導上の諸問題についての効果的な指導のあり方について研究する。

エ 生徒の経験を広め、社会性を養い、好ましい人間関係を育てるために、教育活動全体を通して、共に育ち共に学びあう交流を進めるには、どのような配慮が必要で、どのような場が効果的であるかを研究する。

(18) 学校図書館教育

ア 図書館を利用し、その機能を活用する能力を育成するために、各教科・科目や生徒の実態等に応じ、計画的に図書館の機能を活用する指導方法について研究する。

イ 図書館の利用を通して、主体的な学習態度を確立させるために、読書意欲を喚起するとともに、各種の資料を整備して、その活用を通して学習の効果を高める指導法について研究する。

(19) 視聴覚教育

学習の効果を高めるために、視聴覚教材及びそれに関連する教育機器について理解を深め、各教科・科目の教材開発に努めるとともに、より効果的な活用方法について研究する。

(20) 進路指導

ア 生徒が自己のあり方生き方を考えた主体的な進路選択を行うために、生徒一人一人の社

会的・職業的自立に向け、必要な能力や態度を育てることを通してキャリア発達を促す教育を推進するとともに、ホームルームなどを基盤とした進路指導のあり方について研究する。

イ 進路指導の校内体制を確立するために、学校の教育活動全体を通じたキャリア教育を実践し、全ての教職員が、キャリア教育の意義や必要性について共通理解を深め、組織的・継続的な進路指導体制のあり方やガイダンス機能の充実について研究する。

ウ 学校・家庭・地域や産業界及び関係諸機関との連携を強化するために、大学をはじめとする高等教育機関、各種研究会、家庭・地域や産業界及び公共職業安定所等との連携の方法・内容などについて研究する。

(21) 定時制教育

ア 定時制高等学校の生徒の実態に即した教育の内容と方法を確立するために、就業形態や学習歴などが多様化している実態に即して、生徒の適性、興味・関心、進路希望等に応じて、一人一人の能力や個性を伸ばすことができるよう、学習指導のあり方について研究する。

イ 定時制高等学校の生徒の実態に即した生活指導を進めるために、基本的な生活習慣や規範意識の定着、勤労観・職業観やコミュニケーション能力の育成など、社会の一員としての自覚や自主的・自律的な態度を身に付けさせるための生活指導のあり方について研究する。